

「アメリカで何をつかみ取りたいか」
～世界で活躍するホテルマンになるために～

北海道ニセコ高等学校 緑地観光科 2年 青木未歩

ニセコ高校は日本で雄一の緑地観光科が設置され、観光リゾートについて学べる高校です。ニセコ町とY T Lホテルとの交流が深いため、4年生に進級すると6ヵ月間のマレーシアでのホテル実習を行うことができます。この高校はホテルマンを目指す私にとってぴったりだと感じ、地元幕別を離れ、入学することに決めました。

北海道の基幹産業の中心が1次産業であり、自然豊かな地域です。1次産業である、農業、林業、水産業は北海道の観光に深くつながっています。広大な農地の景色、木々が連なり、四季折々で違った顔を見せる葉の色、美しい青が広がるきらびやかな海など、少し考えるだけでも多くの観光資源が思い浮かびます。羊蹄山が評判のニセコ町で観光について勉強していくうちに、都会的な観光の在り方にも興味がわきました。全米第2位の都市、ロサンゼルスではどのような取り組みを行っているのか、どんな観光資源があるのか、知りたいと思いました。

私がアメリカでつかみ取りたいことは2つあります。

1つ目は高い英語力です。高校2年次の1週間のインターンシップで、ヒルトンニセコビレッジでの実習を経験しました。ここで感じたことは、働いているホテルマンの方々やヒルトンニセコビレッジに訪れるお客様がほとんど外国人であることです。つまり、この業界で活躍するためには、最低条件として英語でのコミュニケーション能力が必要不可欠であり、様々な国から訪れる観光客への対応もできなければなりません。英語能力を高めるため、ロサンゼルスの学校見学をしてみたいです。アメリカではどのような勉強をしているのか、授業の雰囲気の違いなどを比較し、本場のネイティブな発音を聴いてみたいです。お土産として現地の学生たちに和菓子をプレゼントし、同世代の方々とも交流を図りたいです。自発的に英語でコミュニケーションを取ることで、自然と英語能力が向上すると思います。アメリカの学校生活を実際に自分の目で見ることで、新しい発見ができ、今後の授業の取り組み方なども改めて見直すことができると考えています。

2つ目はエンターテインメント性です。ロサンゼルスといえば、ハリウッドなどの映画産業や、ディズニーランドなどのテーマパークが有名です。これらの産業は人々を笑顔へと導く素晴らしい産業だと感じます。これはホテル業でも必要な力だと思いました。お客様へのおもてなしはもちろんですが、誕生日や記念日など、お客様にとって大事な日をサプライズするのもホスピタリティー

の1つだと思います。エンターテインメント性を養うため、ホストファミリーと一緒にハリウッドやディズニーランドに行ってみたいです。北海道の自然にかかわる観光とは違い、ロサンゼルスは都会ならではの観光だと思います。北海道の観光の視点から離れ、ロサンゼルスの観光資源を自ら見学したり、体感することで人が喜ぶことはどんなことなのかを知ることができると思います。また、外国人は日本人とは違い、フレンドリーな雰囲気を持った陽気な人がたくさんいると感じます。国によって違った人間性や民族性を知るため、ホテルの見学をしてみたいです。現地のホテルスタッフと日本人スタッフの違いを比較し、観光の大都市であるロサンゼルスではお客様へのサプライズをどのように行っているのか、どんなアイデアがあるのかなどを勉強したいです。最終日にはそれらの経験を生かし、ホストファミリーへのサプライズを考えたいです。ホームステイ期間中に写真をたくさん撮って、手作りのアルバムをプレゼントし、喜んでもらえたら嬉しいです。

ロサンゼルスでのホームステイで経験したことを夢の実現につなげるため、今からできることはたくさんあると思います。ホームステイで培った英語力を生かし、マレーシアでのホテル実習をより充実したものにします。そうすることで、立派なホテルマンになれると思います。エンターテインメント性は相手の心理を読み取る技術が必要です。人間観察を普段からすることで相手の気持ちを考えたり、理解したりすることが自然とできるようになると思います。

私の将来の夢は世界で活躍するトップレベルのホテルマンです。ロサンゼルスでの貴重な体験を生かし、高いコミュニケーション能力や英語力はもちろん、人を喜ばせるためのエンターテインメント性を養い、自分への自信をつかみ取りたいです。また、ニセコ町とロサンゼルスの観光の違いや良さを知り、海外の知識を増やしていきたいです。スキルアップもそうですが、海外経験はなかなか簡単にはできないので、人とのかわりを大切に、一生の友達ができたら嬉しいと思っています。ホテルに訪れるお客様に最高のひとときを提供する立派なホテルマンになるためには、ロサンゼルスでのホームステイ経験が絶対に必要です。目標達成に向けて、夢の実現に向けて、私はどんなことにも果敢にチャレンジしていきます。